

学習・発達論		講義	非常勤講師 新井 淑弘
科目カテゴリー	教職科目	科目ナンバリング	11520201

### 1. 授業のねらい・概要

教員として子どもと関わる際に必要となる教育心理学・発達心理学の基礎知識を中心に学ぶことで、教える対象、教える方法について心理学の知見からより深く理解できるようになることをねらいとする。

### 2. 授業の進め方

講義及び演習。スライド資料と教科書を中心に授業を進める。

質疑応答の時間を設ける。授業は基本的には対面の講義形式および演習で行う。

【アクティブ・ラーニングの実施の有無】

各授業の最後にリアクションペーパーを用いてリフレクションを行う。

ジグソー学習法を取り入れて、教え合う学習法になれる。

### 3. 授業計画

1. 本講義の意義と目的	9. 教育心理学(知能と学力の仕組み)
2. 発育・発達とは？教育と発達の関係について。	10. 教育心理学(効果的学習 記憶 動機づけ)
3. 心理学的発達の基礎理論について	11. 教育心理学(条件付 古典的条件付 道具的条件付)
4. 発育および発達心理学(胎児期～乳児期)	12. 教育心理学(不適応行動および問題行動と学習指導)
5. 発育および発達心理学(幼児期)	13. 教育心理学(教育評価)
6. 発育および発達心理学(児童期)	14. 発達障害および加齢による心身の変化の理解
7. 発育および発達心理学(思春期・青年期)	15. 教育現場の中の心理学の活用
8. 発達心理学(成人期・中年期・高齢期)	

### 4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

シラバスや教科書をもとに毎回の講義内容を理解しようとの思いを抱いて講義に臨んで欲しい。各講義における受講準備として、予習を1時間程度行って欲しい。各講義の復習を必要に応じて行って欲しい。この復習に最低30分程度は時間をかけて欲しい。

### 5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

上記の各回における講義のまとめ時とその次の回における導入の時間に、学習してきた基礎的かつ基本的な知見の理解度をチェックする。定期試験の終了時に試験の解答を説明する。

### 6. 授業における学修の到達目標

授業の各回において取りあげる教育心理学・発達心理学の基礎的かつ基本的知見を理解し、自己のものとする事ができることを目標とする。

### 7. 成績評価の方法・基準

授業後のリアクションペーパーの内容(50%)、定期テストの結果(50%)を評価の対象とする。ただし、期末テストの結果が60%未満の場合は不合格となるので、試験の準備をしっかりと行うこと。

### 8. テキスト・参考文献

「基本から学ぶ 発達と教育の心理学」 藤田主一編著 福村出版

### 9. 受講上の留意事項

授業の全回数の中の3分の1以上欠席した場合は定期テストの受験資格を失う。

遅刻、途中退席、授業中の私語、授業中に授業に関連する作業以外の行動は、参加態度として評価対象とする場合がある。

**10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無**  
該当しない。

**11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連**  
上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。